

# 情報解析学（2023 年度後期）

担当：大阿久 俊則

第 4 回（10 月 11 日）

- 1.5 正規直交系とフーリエ級数

## 1.5 正規直交系とフーリエ級数

### 命題 1.5 (前回の復習)

(1)  $n = 1, 2, 3, \dots$  のとき

$$\int_0^{2\pi} 1 \cdot \cos nx \, dx = 0, \quad \int_0^{2\pi} 1 \cdot \sin nx \, dx = 0, \quad \int_0^{2\pi} 1 \cdot 1 \, dx = 2\pi$$

(2)  $n = 1, 2, 3, \dots, m = 1, 2, 3, \dots$  のとき

$$\int_0^{2\pi} \cos nx \cdot \sin mx \, dx = 0.$$

(3) (4)  $n = 1, 2, 3, \dots, m = 1, 2, 3, \dots$  に対して

$$\int_0^{2\pi} \cos nx \cdot \cos mx \, dx = \delta_{nm}\pi, \quad \int_0^{2\pi} \sin nx \cdot \sin mx \, dx = \delta_{nm}\pi.$$

ただし  $\delta_{nm}$  は  $n = m$  のとき 1,  $n \neq m$  のとき 0 を表す記号.

ノルムを 1 にする (正規化) ために,

$$\varphi_n(x) = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} & (n=0) \\ \frac{1}{\sqrt{\pi}} \cos nx & (n=1, 2, \dots) \end{cases}$$
$$\psi_n(x) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \sin nx \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

とおくと, 命題 1.5 より  $C([0, 2\pi])$  において

$$(\varphi_i, \varphi_j) = 0 \quad (i \neq j), \quad (\psi_i, \psi_j) = 0 \quad (i \neq j),$$

$$(\varphi_i, \psi_j) = 0 \quad (i=0, 1, 2, \dots, j=1, 2, \dots)$$

$$\|\varphi_i\| = 1 \quad (i=0, 1, 2, \dots), \quad \|\psi_j\| = 1 \quad (j=1, 2, \dots)$$

が成立します.

すなわち,  $\varphi_0, \varphi_1, \varphi_2, \dots, \psi_1, \psi_2, \dots$  は互いに直交して (内積が 0) ノルムがすべて 1 となります. このとき, これらの関数は  $C([0, 2\pi])$  における正規直交系であるといいます.

一般に正規直交系について, 次のことが成り立ちます.

### 命題 1.6

区間  $[a, b]$  上の連続関数  $\psi_1, \dots, \psi_N$  が  $C([a, b])$  の正規直交系, すなわち

$$(\psi_i, \psi_j) = 0 \quad (1 \leq i < j \leq N), \quad \|\psi_i\| = 1 \quad (i = 1, \dots, N)$$

を満たすとする. 任意の  $f \in C([a, b])$  を固定して, 実数  $c_1, \dots, c_N$  に対して 1 次結合  $c_1\psi_1 + \dots + c_N\psi_N$  を考えるとノルム

$$\|f - (c_1\psi_1 + \dots + c_N\psi_N)\|$$

は  $c_n = (f, \psi_n)$  ( $n = 1, \dots, N$ ) のとき最小となる.

証明：ノルムの2乗を内積で表すと、内積の性質から

$$\begin{aligned}\|f - (c_1\psi_1 + \cdots + c_N\psi_N)\|^2 &= \left( f - \sum_{j=1}^N c_j\psi_j, f - \sum_{k=1}^N c_k\psi_k \right) \\&= (f, f) - \left( f, \sum_{k=1}^N c_k\psi_k \right) - \left( \sum_{j=1}^N c_j\psi_j, f \right) + \left( \sum_{j=1}^N c_j\psi_j, \sum_{k=1}^N c_k\psi_k \right) \\&= (f, f) - 2 \sum_{j=1}^N c_j(f, \psi_j) + \sum_{j,k=1}^N c_j c_k (\psi_j, \psi_k) \\&= \|f\|^2 - 2 \sum_{j=1}^N c_j(f, \psi_j) + \sum_{j=1}^N c_j^2 \\&= \sum_{j=1}^N \{c_j - (f, \psi_j)\}^2 + \|f\|^2 - \sum_{j=1}^N (f, \psi_j)^2.\end{aligned}$$

この式は  $c_j = (f, \psi_j)$  ( $i = 1, \dots, N$ ) のとき最小値  $\|f\|^2 - \sum_{j=1}^N (f, \psi_j)^2$  をとる。(証明終わり)

## 命題 1.7

関数  $f \in C([0, 2\pi])$  に対して、自然数  $N$  を固定するとき、有限フーリエ級数

$$g(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^N (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

を考えると、 $\|f - g\|^2$  は

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx \quad (n \geq 0), \quad b_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx \quad (n \geq 1)$$

のとき最小値  $\|f\|^2 - \frac{\pi}{2} a_0^2 - \pi \sum_{n=1}^N (a_n^2 + b_n^2)$  をとる.

証明：

$$\varphi_n(x) = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} & (n = 0) \\ \frac{1}{\sqrt{\pi}} \cos nx & (n = 1, 2, \dots) \end{cases}$$
$$\psi_n(x) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \sin nx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

とおくと命題 1.5 より  $\varphi_0, \varphi_1, \psi_1, \varphi_2, \psi_2, \dots$  は  $C([0, 2\pi])$  において正規直交系である.

命題 1.6 より

$$g = a'_0 \varphi_0 + \sum_{n=1}^N (a'_n \varphi_n + b'_n \psi_n)$$

とおくと,  $\|f - g\|$  は

$$a'_0 = (f, \varphi_0) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) dx$$

$$a'_n = (f, \varphi_n) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots),$$

$$b'_n = (f, \psi_n) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

のとき最小値をとる.

$g$  を  $\cos nx$  ( $n = 0, 1, 2, \dots, N$ ) と  $\sin nx$  ( $n = 1, 2, \dots, N$ ) の 1 次結合で表すと

$$g(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} a'_0 \cdot 1 + \sum_{n=1}^N \left( \frac{1}{\sqrt{\pi}} a'_n \cos nx + \frac{1}{\sqrt{\pi}} b'_n \sin nx \right)$$

これを命題 1.7 の  $g(x)$  の式

$$g(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^N (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

と比較すると

$$a_0 = \frac{2}{\sqrt{2\pi}} a'_0 = \frac{2}{\sqrt{2\pi}} (f, \varphi_0) = \frac{2}{\sqrt{2\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) \frac{1}{\sqrt{2\pi}} dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) dx$$

また  $n \geq 1$  のときは

$$\begin{aligned} a_n &= \frac{1}{\sqrt{\pi}} a'_n = \frac{1}{\sqrt{\pi}} (f, \varphi_n) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) \frac{1}{\sqrt{\pi}} \cos nx \, dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\sqrt{\pi}} b'_n = \frac{1}{\sqrt{\pi}} (f, \psi_n) = \frac{1}{\sqrt{\pi}} \int_0^{2\pi} f(x) \frac{1}{\sqrt{\pi}} \sin nx \, dx \\ &= \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx \end{aligned}$$

のとき  $\|f - g\|^2$  は最小となり、最小値は命題 1.6 の証明より

$$\begin{aligned} \|f\|^2 - \sum_{n=0}^N (f, \varphi_n)^2 - \sum_{n=1}^N (f, \psi_n)^2 &= \|f\|^2 - \sum_{n=0}^N a_n'^2 - \sum_{n=1}^N b_n'^2 \\ &= \|f\|^2 - \frac{\pi}{2} a_0^2 - \pi \sum_{n=1}^N a_n^2 - \pi \sum_{n=1}^N b_n^2 \end{aligned}$$

である。(証明終わり)

そこで周期  $2\pi$  の関数  $f(x)$  と自然数  $N$  に対して,  $a_n, b_n$  を

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx \quad (n \geq 0), \quad b_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx \quad (n \geq 1)$$

で定めて

$$f_N(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^N (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

と定義します. これは有限フーリエ級数なので, 一般には  $f(x)$  とは異なりますが, 次の定理が成り立ちます.

### 定理 1.1

$f(x)$  が周期  $2\pi$  の連続関数ならば,  $\lim_{N \rightarrow \infty} \|f - f_N\| = 0$  が成立する.

実は  $f(x)$  がいくつかの点で不連続である場合にもこの定理は成立します. この定理の証明は後で行います.

## 定義 1.1

周期  $2\pi$  の関数  $f(x)$  に対して  $a_n, b_n$  を

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx \quad (n \geq 0), \quad b_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx \quad (n \geq 1)$$

で定義するとき,

$$f(x) \sim \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

と書いて、この右辺を  $f(x)$  のフーリエ展開またはフーリエ級数という。

$f$  のフーリエ展開の  $n = N$  までの部分

$$f_N(x) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^N (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

を考えると、定理 1.1 によって  $\lim_{N \rightarrow \infty} \|f - f_N\| = 0$  が成り立つので、 $f_N$  はノルムで測ったとき  $f$  に限りなく近づくことになります (ノルム収束). しかしすべての  $x$  に対して  $\lim_{N \rightarrow \infty} f_N(x) = f(x)$  が成立する (各点収束) とは限りません (後の例を参照). しかし「ほとんどの」 $x$  に対してこの等式が成立することが知られています. つまりフーリエ展開の式

$$f(x) \sim \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

において記号  $\sim$  は「ほとんど =」 だと思ってよいことになります.

さて、 $f$  のフーリエ展開

$$f(x) \sim \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos nx + b_n \sin nx)$$

の「第  $n$  項」

$$a_n \cos nx + b_n \sin nx = \sqrt{a_n^2 + b_n^2} \sin(nx + \theta_n) \quad (\theta_n \text{ はある実数})$$

(ただし  $n=0$  のときは  $a_0/2$ ) は  $f(x)$  の表す波に含まれる周期  $2\pi/n$  (周波数が基本周波数  $1/2\pi$  の  $n$  倍) の正弦波の成分を表していると考えられます。そこでそれぞれの正弦波の振幅を数列で表すと

$$\frac{|a_0|}{2}, \quad \sqrt{a_1^2 + b_1^2}, \quad \sqrt{a_2^2 + b_2^2}, \quad \sqrt{a_3^2 + b_3^2}, \quad \dots$$

となり、これは  $f(x)$  に、基本振動数の  $n$  倍の振動数の正弦波がどれだけ含まれているかを表しており、 $f(x)$  のスペクトルと呼ばれます。

フーリエ係数の計算に便利な性質を示します。

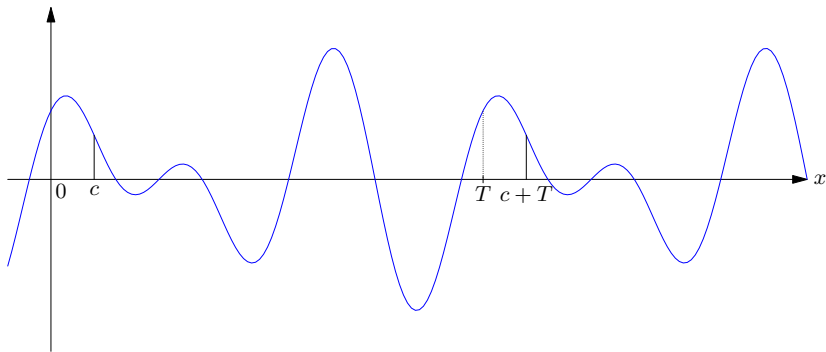
### 補題 1.1

$f(x)$  が周期  $T$  の周期関数のとき、任意の定数  $c$  に対して

$$\int_0^T f(x) dx = \int_c^{T+c} f(x) dx.$$

証明：たとえば  $0 < c < T$  のとき

$$\begin{aligned} \int_c^{T+c} f(x) dx &= \int_c^T f(x) dx + \int_T^{T+c} f(x) dx \\ &= \int_c^T f(x) dx + \int_T^{T+c} f(x+T) dx \\ &= \int_c^T f(x) dx + \int_0^c f(x) dx = \int_0^T f(x) dx \end{aligned}$$



## 命題 1.8

$f$  を周期  $2\pi$  の周期関数とするとき、

- (1)  $f$  が偶関数，すなわち  $f(-x) = f(x)$  が成立すれば，すべての  $n = 1, 2, 3, \dots$  について  $b_n = 0$ .
- (2)  $f$  が奇関数，すなわち  $f(-x) = -f(x)$  が成立すれば，すべての  $n = 0, 1, 2, 3, \dots$  について  $a_n = 0$ .

証明：補題 1.1 によって， $\int_0^{2\pi} f(x) dx = \int_{-\pi}^{\pi} f(x) dx$ . まず  $f(x)$  が偶関数ならば  $f(x) \sin nx$  は奇関数なので

$$b_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \sin nx dx = 0 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

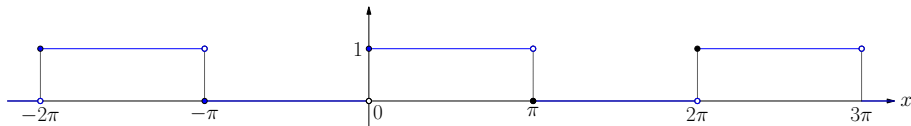
となります。また  $f(x)$  が奇関数ならば  $f(x) \cos nx$  も奇関数なので

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_{-\pi}^{\pi} f(x) \cos nx dx = 0 \quad (n = 0, 1, 2, \dots).$$

## 例 1.2 (パルス波)

$$f(x) = \begin{cases} 1 & (0 \leq x < \pi) \\ 0 & (\pi \leq x < 2\pi) \end{cases}$$

で定義される関数  $f$  を周期  $2\pi$  の周期関数として  $\mathbb{R}$  に拡張した関数を同じ記号  $f$  で表しましょう。



$f$  のフーリエ展開を計算してみましょう。

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \cos nx \, dx \quad (n \geq 0)$$

よって  $n = 0$  のときは

$$a_0 = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} 1 \, dx = 1$$

$n \geq 1$  のときは

$$a_n = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \cos nx \, dx = \frac{1}{\pi} \left[ \frac{1}{n} \sin nx \right]_0^{\pi} = 0$$

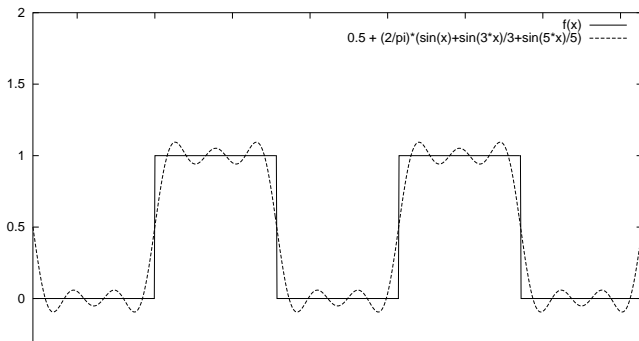
同様に  $n \geq 1$  のとき

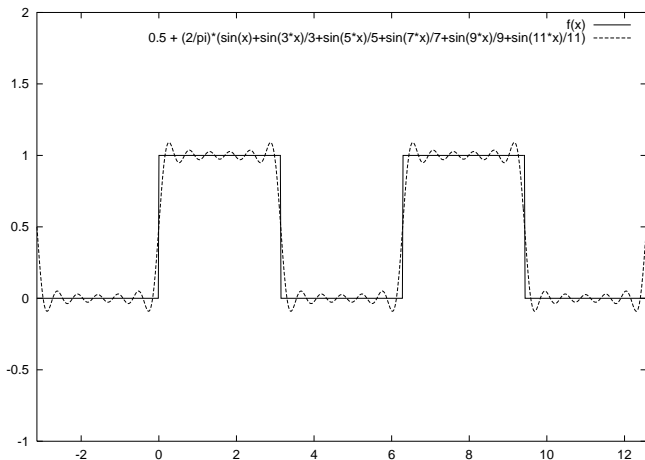
$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \sin nx \, dx = \frac{1}{\pi} \left[ -\frac{1}{n} \cos nx \right]_0^{\pi} \\ &= \frac{1}{n\pi} (\cos 0 - \cos n\pi) = \frac{1}{n\pi} \{1 - (-1)^n\} \\ &= \begin{cases} \frac{2}{n\pi} & (n \text{ が奇数のとき}) \\ 0 & (n \text{ が偶数のとき}) \end{cases} \end{aligned}$$

従って  $f$  のフーリエ展開は

$$\begin{aligned} f(x) &= \frac{1}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} \frac{2}{(2k-1)\pi} \sin(2k-1)x \\ &= \frac{1}{2} + \frac{2}{\pi} \sin x + \frac{2}{3\pi} \sin 3x + \frac{2}{5\pi} \sin 5x + \cdots \end{aligned}$$

となります．この右辺の  $2n-1=5$  までの部分 and (左) と，  $2n-1=11$  までの部分 and (右) のグラフは



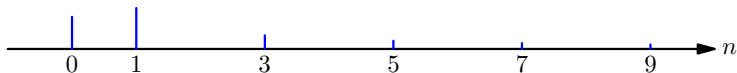


となり、項を増やしていくとフーリエ級数の有限和が  $f$  に近付いて行く様子が良くわかります. (ただし  $f$  の不連続点  $k\pi$  ( $k$  は整数) ではフーリエ級数は  $\frac{1}{2} \neq f(k\pi)$  に収束する. )

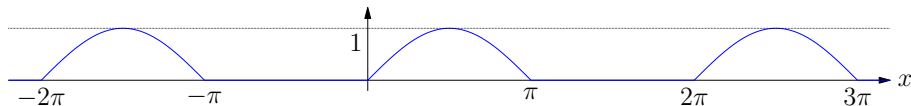
また，パルス波  $f$  のスペクトルは

$$\frac{1}{2}, \frac{\pi}{2}, 0, \frac{2}{3\pi}, 0, \frac{2}{5\pi}, \dots$$

となります．



例 1.3 (整流正弦波)  $f(x) = \max\{\sin x, 0\} = \frac{1}{2}(|\sin x| + \sin x)$  のフーリエ展開を計算しましょう. これは  $x$  が時刻を表すとすれば, たとえば正弦波の交流電圧を, 一方向にしか電流を通さないダイオード (半導体) に加えたときの電流を表しています.



$n = 1$  のときは

$$a_1 = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \sin x \cos x \, dx = \frac{1}{2\pi} \int_0^{\pi} \sin 2x \, dx = \frac{1}{2\pi} \left[ -\frac{1}{2} \cos 2x \right]_0^{\pi} = 0$$

$n \neq 1$  のとき

$$\begin{aligned}a_n &= \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \cos nx \, dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \sin x \cos nx \, dx \\&= \frac{1}{2\pi} \int_0^{\pi} \{\sin(n+1)x - \sin(n-1)x\} \, dx \\&= \frac{1}{2\pi} \left[ -\frac{\cos(n+1)x}{n+1} \right]_0^{\pi} - \frac{1}{2\pi} \left[ -\frac{\cos(n-1)x}{n-1} \right]_0^{\pi} \\&= \frac{1}{2\pi} \frac{1 - (-1)^{n+1}}{n+1} - \frac{1}{2\pi} \frac{1 - (-1)^{n-1}}{n-1}\end{aligned}$$

で、これは  $n$  が奇数のときは 0,  $n$  が偶数のときは

$$\frac{1}{2\pi} \left( \frac{2}{n+1} - \frac{2}{n-1} \right) = -\frac{2}{\pi(n^2 - 1)}$$

となります。

同様にして

$$\begin{aligned} b_n &= \frac{1}{\pi} \int_0^{2\pi} f(x) \sin nx \, dx = \frac{1}{\pi} \int_0^{\pi} \sin x \sin nx \, dx \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_0^{\pi} \{-\cos(n+1)x + \cos(n-1)x\} \, dx \end{aligned}$$

従って、 $n = 1$  のときは

$$b_n = \frac{1}{2\pi} \int_0^{\pi} (-\cos 2x + 1) \, dx = \frac{1}{2\pi} \left[ -\frac{1}{2} \sin 2x + x \right]_0^{\pi} = \frac{1}{2}$$

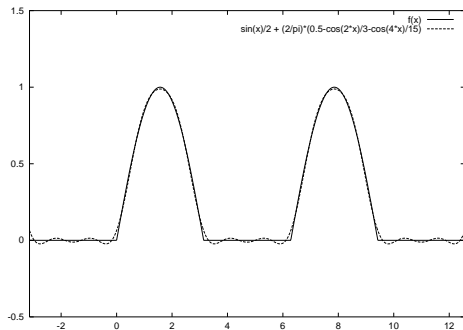
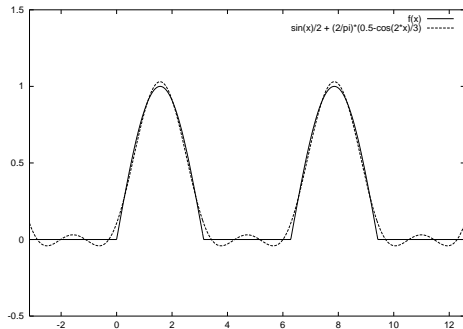
$n \neq 1$  のときは

$$b_n = \frac{1}{2\pi} \left[ -\frac{1}{n+1} \sin(n+1)x + \frac{1}{n-1} \sin(n-1)x \right]_0^{\pi} = 0$$

従って  $f$  のフーリエ展開は

$$\begin{aligned} f(x) &= \frac{1}{\pi} + \frac{1}{2} \sin x - \frac{2}{\pi} \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{4k^2 - 1} \cos 2kx \\ &= \frac{1}{\pi} + \frac{1}{2} \sin x - \frac{2}{\pi} \left( \frac{1}{3} \cos 2x + \frac{1}{15} \cos 4x + \frac{1}{35} \cos 6x + \cdots \right) \end{aligned}$$

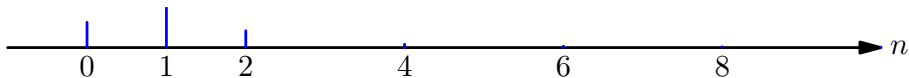
となります。  $k = 1$  ( $n = 2$ ) までの部分和と  $k = 2$  ( $n = 4$ ) のグラフは下のようになります。



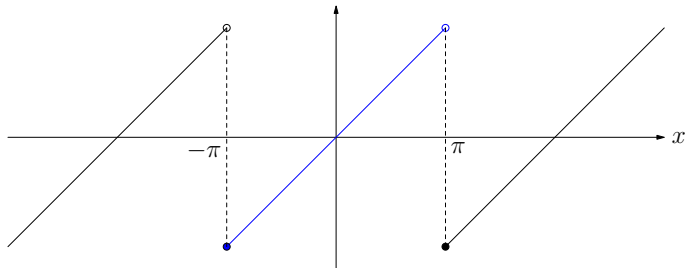
また整流正弦波  $f$  のスペクトルは

$$\frac{1}{\pi}, \frac{1}{2}, \frac{2}{3\pi}, 0, \frac{2}{15\pi}, 0, \dots$$

となります。



例 1.4 (のこぎり波)  $f(x) = x$  ( $-\pi < x \leq \pi$ ) を周期  $2\pi$  の周期関数として  $\mathbb{R}$  に拡張した関数を同じ記号  $f(x)$  で表し, そのフーリエ展開を計算しましょう.



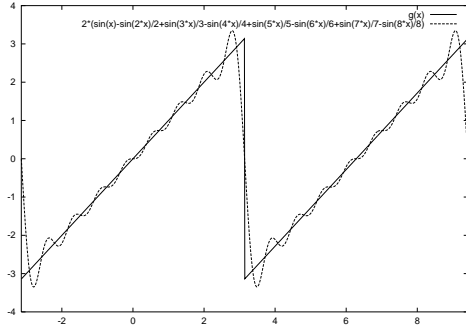
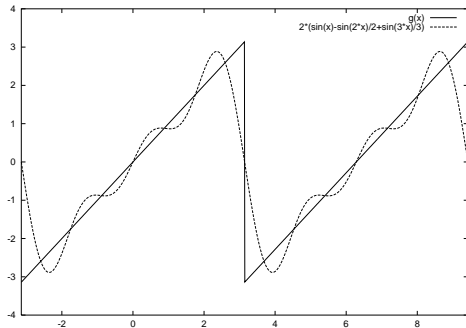
$f(x)$  は奇関数なので  $a_n = 0$  で

$$\begin{aligned}
 b_n &= \frac{2}{\pi} \int_0^{\pi} x \sin nx \, dx \\
 &= \frac{2}{\pi} \left( - \left[ \frac{x \cos nx}{n} \right]_0^{\pi} + \int_0^{\pi} \frac{\cos nx}{n} \, dx \right) \\
 &= \frac{2}{\pi} \left\{ - \frac{\pi \cos n\pi}{n} + \left[ \frac{1}{n^2} \sin nx \right]_0^{\pi} \right\} = \frac{2(-1)^{n-1}}{n}
 \end{aligned}$$

よって  $f$  のフーリエ展開は

$$f(x) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{2(-1)^{n-1}}{n} \sin nx = 2 \left( \sin x - \frac{\sin 2x}{2} + \frac{\sin 3x}{3} - \frac{\sin 4x}{4} + \cdots \right)$$

$n = 3$  までと  $n = 8$  までの部分和のグラフは下のようになります。



のこぎり波  $f$  のスペクトルは

$$0, 2, 1, \frac{2}{3}, \frac{1}{2}, \frac{2}{5}, \dots$$

となります。

